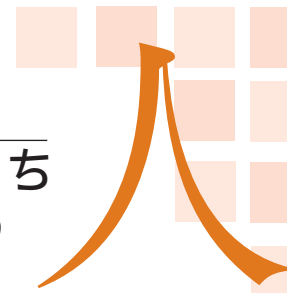


新シリーズ
我がまち
この



「広報やながわ」では、毎月いろんな活動をしている市民を紹介していきます。今月は、今年度の市総合美術展の洋画部門で大賞を受賞した荻島香織さんです。



荻島 香織さん
西蒲池・26歳

動物を描き
時代を表現

大賞を受賞した「いい湯だな〜」は、セイウチが青い紙コップの中に入り、気だるそうにこちらを見ている作品。紙コップの表面には、動物園の家族の風景。そして弾丸が貫通したような穴。ユーモラスで楽しい絵の中にも、社会を風刺したような、様々なことを考えさせられる絵です。

「セイウチはぬるま湯につかっているんですよ。現代人は便利さにとっぷりつかって、使い捨てのものをどんどん消費しています。セイウチは現代人でもあり、動物園の家族は逆にセイウチから見られています。穴は世界で起きている戦争やテロの象徴。人間の愚かさや矛盾などを表現しました。」

荻島さんが美術に興味を持ったのは

中学生のとき。美術の授業で先生から褒められたことからです。伝習館高校では美術部に入り、2年生で描いた作品は市総合美術展で奨励賞に入賞。絵の技術を身につけるために久留米の美術塾に通いました。福岡教育大学に進学し美術を専攻。大学4年のころ、これまで技術しか考えてなかったことに気づき、「なぜ絵を描くのか」「何を描きたいのか」真剣に悩みます。そして、好きな動物を描くようになりました。

「私たち人間社会がいかに複雑で愚かで矛盾しているかなど、動物は逆に純粋な行動で、私たちに示してくれます。動物を描くことで、現代社会の一面を表現できるのではと考えました。」

荻島さんが描く動物は、口や鼻など

が大きく強調されたり、同じ色で塗られ単純化されたり、どれもユーモラスで楽しい。しかしよく見るとその動物たちが、私たち現代人に見えてきて、複雑な気分にもなります。

大学卒業後、大学院に進学。修士論文は古代壁画の研究でした。理由は「なぜ人間は絵を描くようになったのか。その原点を知りたかった」から。研究を通して絵の材料や技法に幅が出てくるようになります。今回大賞を受賞した作品には、下地に漆喰が使われています。絵の具はデザインなどで使われるアクリルですが、漆喰により重厚感のあるものに仕上がりました。

研究ではワラや土を混ぜて壁画の下地になる壁づくりもしました。土をこ

ねていると、昔、田植えの手伝いをしたときのことを思い出したそうです。「絵は特別なものでなく、農業と同じで昔から生活に密着したものだ。ただ」と改めて気付かされ、その後の絵画制作への自信にもつながりました。

現在は、アルバイトをしながら毎日6時間、絵の制作を続けています。4月からは茨城県にある筑波大学の大学院で、「美術における動物の役割や意味」を研究しながら、絵の勉強をする予定です。「親には迷惑をかけますが、後悔しないよう、今できることを精いっぱいやっていきたい。ワンステッブ高い自分に向けてがんばります。」

海外留学にも備え、英会話も勉強中。両親と姉の4人家族です。

健康宅配便
柳川・山門・三池
いきいきプラン21

歩くことは楽しい!!

「清水山もみじウォーク」は大盛況

運動習慣を地域に広げようと、柳川市・瀬高・山川・高田町1市3町の住民12人で構成する「てくてくサポーター」。瀬高町で11月23日に行われた「清水山もみじウォーク」への参加を企画会議で決定し、サポーターは地域公民館へのポスター掲示依頼や、知人や関係団体への呼びかけを行いました。

当日は小春日和の天気にも恵まれ、今までの2倍の約450人が参加しました。

初心者でも「らくらく」「楽しく」歩きました

初心者も参加しやすいように、従来の「5キロコース」に加え、「3キロ



清水寺の石段もスイスイ登った

コース」を新たに設けました。参加者はコース沿いの史跡をゆっくり鑑賞したり特産品売り場で一息ついたり。「12キロコース」では、親子連れの姿も見られました。

コース途中の大観峠の登り口では、長田鉱泉とあめ玉の配布もあり、のどの渇きを潤し疲れた体を回復することができました。大観峠では、各自持参した弁当をひろげながらおしゃべりを楽しみ、参加者同士が交流する姿も見られました。

それぞれ思い思いのペースで歩き、心地よい汗を流した「清水山もみじウォーク」。初めて参加した人は、自宅付近のウォーキングでは、普段体感できない山々の紅葉や澄んだ空気のおいしさを味わえたのではないのでしょうか。

足は第2の心臓です

「足は第2の心臓」とよくいわれています。私たちの全身には、すみずみまで血管が張り巡らせ、その血管を通して血液や酸素と栄養を運んでいます。その際、心臓は新鮮な血液を全身に送り出すポンプの役割を果たしています。足の筋肉の収縮運動が心臓のポンプ作用を助け、心

臓の負担を軽くしています。足の筋肉は「第2の心臓」ともいわれる働きを行っています。

1市3町のアンケートでは、運動習慣のある人は(1回30分以上の運動を週2回以上、1年以上継続している人)は、10人に1人から2人でした。これを機会に、運動を始めた人や習慣になった人が少しは増えたのではないのでしょうか。大会に参加できなかった人も、自宅の周りで、自分だけのウォーキングコースを見つけてみてはいかがでしょうか。

柳川健康・文化ウォーキング

まちづくりネットワーク柳川では、毎月第3日曜日に市内の史跡や名所を巡る「柳川健康・文化ウォーキング」を開催しています。今月は「三柱神社&三社詣り」です。

日時 1月15日(日) 午前9時15分、市役所柳川庁舎玄関前集合(申し込み不要・小雨決行)

参加費 高校生以上200円(保険、資料代)

詳しくは、まちづくりネットワーク柳川(中村さん ☎090・5477・5188)まで。

環境問題を考えよう

環境フェスタinたかた 地球にやさしい暮らしを

環境にやさしい暮らしを考えようと、リサイクルをメインテーマにした「環境フェスタinたかた」を開催します。講師に地球環境問題、身近な暮らしの中の問題を、大人と子どもが一緒に活動している特定非営利団体「もしもし地球」の代表理事・吉田順子さんを招きます。入場無料。

日時 2月5日(日)、午後1時〜

会場 高田町中央公民館

内容 環境問題と私たちの関わりについての講演 高田町立若田小学校、飯江小学校児童による研究発表、リサイクル関連の展示など

問い合わせは、山門保健福祉環境事務所環境課(☎72・2163)まで。

「ストップザ地球温暖化」講演会 環境家計簿のススメ

柳川青年会議所では、地球温暖化の原因となる二酸化炭素を減らすため、「環境家計簿のススメ」と題して講演会を開催します。

日時 2月8日(水)、午後7時35分〜

会場 柳川商工会議所3階大ホール

定員 先着50人(2月3日までに事前申し込みを)

申し込み、問い合わせは、同青年会議所(☎73・4015)まで。